

# 当社のDXにおける取り組み

## 1. トップメッセージ

株式会社NISSYOは、産業用トランス・リアクトル・制御盤の設計・製造を行っています。

私たちが作る製品は、半導体製造装置をはじめ様々な装置や機械に組み込まれており、安全な電源供給の役割を担う心臓部ともいえます。永年にわたりノウハウを蓄積し、おかげ様で多くのお客様に信頼され、15年で10倍の会社に成長しました。昨今のデジタル技術やDXの進化は、自動運転やロボティクスなどを実現し、社会生活を劇的に変革しています。特に、その進化を支える半導体製造は劇的に伸びていくことが予想されています。一方、これらは必要電力を増加させる脱炭素化とは相反する行為でもあります。私たちは、デジタル技術やデータを駆使し、製品の性能向上や生産性向上(成長)とエネルギー効率の改善(脱炭素化)を両立させるためのDXやGXの取組を模索し続けており、デジタル技術社会の持続的な発展を支えたいと考えております。

弊社は2022年にDX認定されてから、データドリブン経営、生産性向上、デジタル人材育成に努めてまいりましたが、更新の時期を迎え、更なる飛躍に向けてDX戦略を見直しました。引き続き、「アスヨクDX※1」を運営し、IT化による生産性向上に努めるとともに、脱炭素化に向けた取組も推進してまいります。データドリブン経営を「NISSYO PDCAサイクル※2」によって継続的に取り組み、顧客満足度を高めながら、お客様から選ばれる会社になり成長していきます。

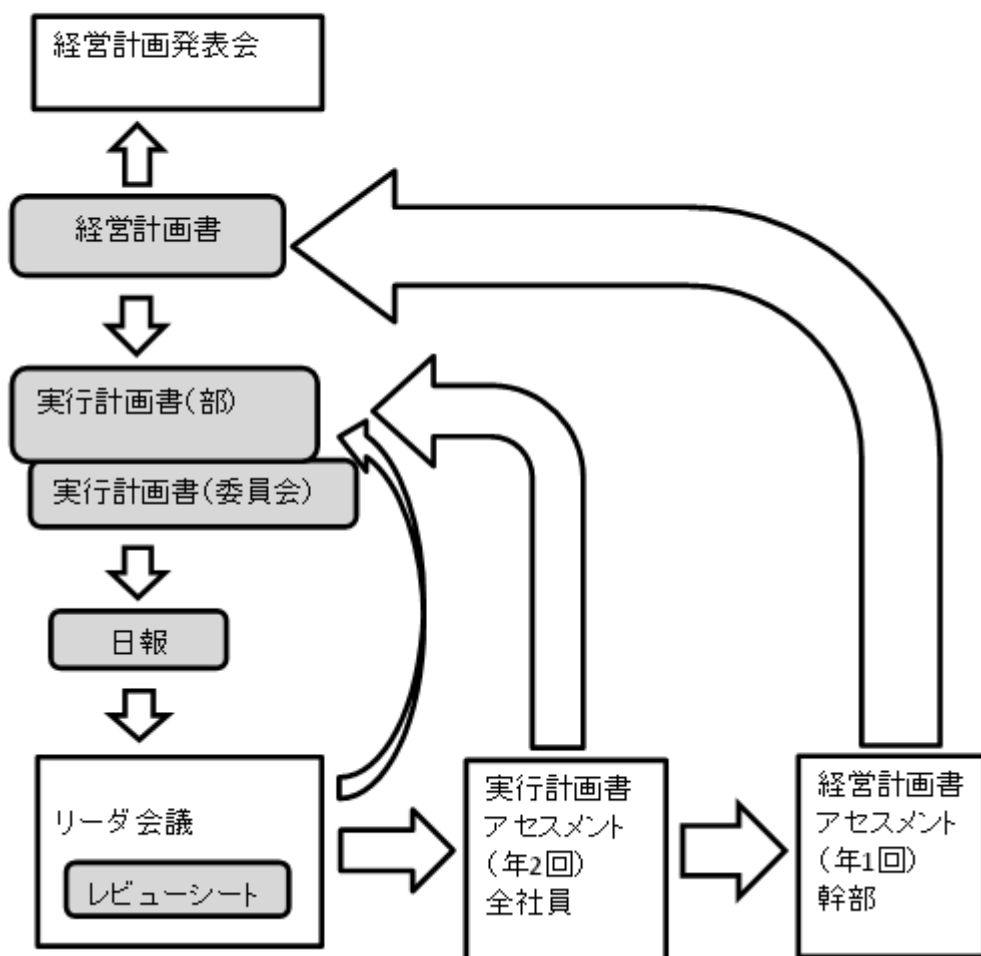
これからも「ありえない町工場」として、希望あふれる明るい未来を創るために、時代の変化に敏感になり、変化を常として日々進化してまいります。

※1 アスヨクDX:「デジタルの力で明日を良くしていこう」というコンセプトで自社制作したクラウド型のポータルサイトのこと(商標登録)



※2 NISSYO PDCAサイクル: 当社のマネジメントサイクルのモデルであり、毎年作成する経営計画書を中心として、部門毎に進捗管理を行い、定期的に行われるアセスメントで振り返り、次期の課題を明確化して実行計画書を作成し、実施しています。

### NISSYO PDCAサイクル



## 2. 企業理念・ビジョン・標語

### ■企業理念

私達はお客様に喜ばれる仕事を通して人材を育成し広く、社会に貢献する

### ■ビジョン

NISSYOの製品は皆さんの生活基盤を支えています。例えば、乗り物に使用されるトランス(変圧器)、携帯電話やパソコンに入っている半導体です。私たちは、デジタル技術を駆使し、“人の手を介するものづくり”を強みとして、サステナビリティを意識しながら世界のインフラを支える唯一無二の企業となり、5年後に従業員400人を目指します。

### ■標語

私達は下記の考え方を全社で共有し、日々の仕事や行動に反映し成果をあげます。

留まる事を選択すればいつの間にか時代に追いつかれ、追い越され、気が付けばわが社は一人取り残されてしまいます。そうならないように……

- 1 Change or Die 変わらないと無くなる
- 2 Fast eats Slow 早いものが、遅いものに勝つ

## 3. DX戦略

私たちは、上記のビジョンを実現するために下記のDX戦略を立案し、経営戦略室、DX委員会を中心として全社でDXに取り組んでいきます。

### (1) データドリブン経営の実践

- ・バックオフィス業務の最適化
- ・自社ポータルサイト(アスヨクDX)へのデータ集約
- ・データ分析力の向上のための人材育成

### (2) IT化を進め生産性を向上させる

- ・RPAの導入による生産性の向上
- ・サプライチェーンのデジタル化推進

### (3) 脱炭素化(GX)による持続的な成長

- ・業務プロセスの見直しと帳票類のペーパーレス化
- ・中小企業向けSBT(Science Based Targets)のScope1(燃料の燃焼)、Scope2(電気の使用料)の排出量を削減する。

## 4. DX推進指標

当社は毎年売上の0.3%をDX推進のために投資し、下記指標を定め、経営戦略室、DX委員会を中心として「NISSYO PDCAサイクル」に沿ってビジネス環境の変化に迅速に対応できるようにDXに取り組みます。

### (1) データドリブン経営の実践

#### 1) バックオフィス業務のクラウド化(勤怠管理、生産管理、会計管理)

2027年6月までに対象3業務で使用する3ソフトをクラウド化

#### 2) データドリブン経営に必要なBIをアスヨクDX(ポータルサイト)へ集約

2027年6月までに50個作成

#### 3) データ分析力の向上のための人材育成

2027年6月までにデジタル人材を20名育成

### (2) IT化を進め生産性を向上させる

#### 1) RPAの導入による生産性の向上

2029年までにRPA導入による年間600時間の工数削減を実施

#### 2) サプライチェーンのデジタル化推進

2029年までにEDIによるサプライチェーンへの発注比率を90%へ引き上げ

### (3) 脱炭素化(GX)による持続的な成長

#### 1) 業務プロセスの見直しと帳票類のペーパーレス化

2029年までに100万枚削減

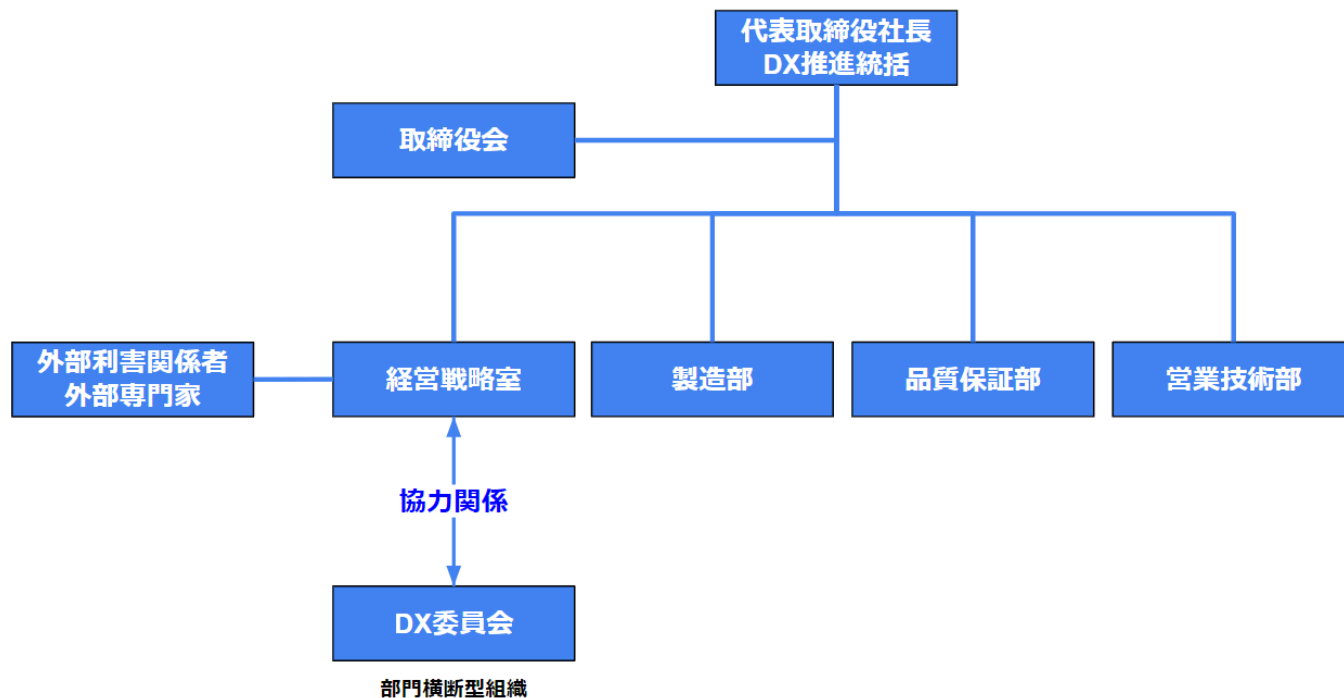
#### 2) SBTのScope1(燃料の燃焼)、Scope2(電気の使用料)について

2030年までに50%削減

## 5. 体制、人材育成

当社は、以下の組織によりDXの推進を強化するとともに、必要なデジタル人材の育成に努めます。

- ・経営戦略室(2021年11月1日付で新設した社長直轄組織)
- ・DX委員会(各部門から人材を結集した委員会組織)



## 6. デジタル技術、デジタル環境整備

弊社は、DX推進のために、定期的に既存システムの見直し・改善や新規システムの導入を行いながらデジタル技術の活用や環境整備に取り組めます。

## 7. 社長メッセージ

株式会社NISSYOの久保寛一です。

早いもので、DX認定の更新の時期となりました。これまで、積極的に業務システムをデジタルシフトし、生産性向上、品質向上、業務の標準化、ムダ取りにつとめてまいりました。

2022年のDX認定以来、様々な取組が認められ2023年には「東京都中小企業技能人材育成大賞知事賞」大賞を受賞しました。最近では、全社を挙げてデジタル人材育成に取り組んでおり、ITパスポート試験の合格者がすでに8名を超えております(ちなみに、私も合格しました！)。また、製品の性能向上や生産性向上(成長)とエネルギー効率の改善(脱炭素化)を両立させるためのDXやGXの取組にも注力してまいります。経営者自身のデジタルリテラシーの向上や脱炭素への理解が、組織のDXやGXを促進すると信じています。

私たちは、これからも東京・多摩地区のDX認定企業として、社内外にデジタル技術やデータ活用の重要性や楽しさを伝えていながら、成長と脱炭素化を促進し、地域を元気にするために広く社会に貢献していくつもりです。

2024年3月1日

株式会社NISSYO

代表取締役社長 久保 寛一